



# 『エンターテナー目指して』

佐藤 康弘さん



マジシャンシュガーこと、佐藤康弘さんがマジックに出会ったのは6年ほど前のこと。「旅行先のお土産屋にあったマジックグッズがふと目にとまったのです。思い返すと、子どもの頃、ミスターマリツクの超魔術をよく見ていて、マジシャンは心の奥にあった憧れの姿だったのかも」。それからいくつものグッズを買い説明書を見て挑戦してみるものの、コツをつかめず

困っていたところ、市内にマジック同好会があることを知り入会。月一回の例会に参加したり、県外で行われるマジック教室に参加して腕を磨いていきました。数年前からは地域の敬老会や介護施設や幼稚園・保育園でのイベントなどで、マジックを披露しています。

活動を続けていく中、佐藤さんは佐久市で行われたイベントでソルトさん（大越要さん）に出会います。そしてソルトさんにマジックショーを見に来ていただく機会がありました。そこで漫才的な要素に気づいたソルトさんはコンビでマジックの舞台をしないかと提案しました。

「マジックはすごい…とは思ってもらえなく、それだけでは淡々としがち。そこに笑いが加わることで自分もつと楽しくなっていきました。」

仕事の合間を縫い、二人で相談しながら舞台を作り上げていくのは、一人でマジックを

た時とは違う魅力があること。

目指す「先輩」はマジックやナポレオンズ。

マジックに笑いの



相方の大越さん(左)と佐藤さん(右)

要素も加え、マジックに絡めたクイズをやり取りしたり、舞台上上がってマジックに挑戦してもらったりと、お客さんと距離感の近い、一体感を感じられるステージを目指しています。

そんな佐藤さんですが、マジックと出会った6年前から同時進行で目指しているのが、地域の子どものための教育に関わるという夢。コンビのソルトさんは塾講師ということもあり、教育論に花が咲くこともあるそうです。小学校のマジッククラブの講師のほか、自身でマジック教室を主宰。また、何年か先の自分の未来が「こうなっていたらいいな」という思いを形にする「夢実現新聞」制作の教室も開いています。「6年前は夢だったものが形になってきたと実感しています。今後は自分ができることで子どもの教育に関わっていけたら」。

名づけて『エンターティメントアカデミー』。新たな夢が動き始めています。

編集委員 金子 美江



## 柳 好 会

● 土作り手数惜しまぬ自慢作 土屋 正示

● 山の子が海を見た日のあの叫び 山のあなた

● 長い道しみじみ語る百五歳 街角の一枝

● 一言の労い心温くする 高山 はな

● 人の知恵捻り潰して行く豪雨 泉 多愉

● 面目を一新させる自尊心 小林 游峰



## て ま り 句 会

● 行合ひの雲明けて川底に日矢 大池 知恵

● 山脈を静かな時間蕎麦菜咲く 野中 威

● 貸ボート降りて左右に別れけり 工藤 貢

● 山清水溢るる紅きたなごころ 石田 経治

● 葛の花犬はさつさと引き返す 平澤 寿美枝

● 芋殻炊く幾重にも傘さしかけつ 国見 敏子